

■ 現状と課題

- ・近年、日本の人口は減少局面を迎えており、高齢化の進行や労働人口の減少など、地域での担い手不足が課題となっています。
- ・年齢や国籍、障害の有無、ライフステージなどに左右されず、はたらくことを望む人がそれぞれのはたらきたいを実現できるよう、環境や制度を整えることが求められています。
- ・はたらくことが収入を得るための手段だけではなく、社会の一員として活躍する機会となるよう、一人ひとりのニーズに合わせた多様なはたらき方を構築する必要があります。

■ 地域での取り組み

- ・地域の社会福祉法人などが連携し、それぞれの支援のノウハウを活かし、はたらきづらさを感じている人にはたらく機会を提供する取り組みを進めます。
- ・地域で障害のある人の就労支援を行う、就労移行支援事業所や就労継続支援事業所、行政機関や教育機関等の関係者が集まり、障害のある人の様々な就労について情報共有し、障害のある人が生き生きとはたらく支援・環境づくりを行います。
- ・地域の農業者と福祉事業所は、農産物の加工品の作成や農作業を通じて、障害のある人にはたらく機会を確保します。

■ 練馬区社協の取り組み

- ・練馬区社協各部署の生活支援や就労支援のノウハウを生かし、ボランティア活動をはじめとする社会参加や就労に向けた第一歩を踏み出すためのプログラムを提供します。
- ・社会参加や就労の機会をつかめずにいる人へのはたらく機会の提供について、ねりま社会福祉法人等のネットの参加法人に呼びかけ、就労体験の充実を図ります。
- ・多様なはたらき方について、事業主等の理解を高める工夫や支援を行います。

目指す姿

多様な はたらき方が できる地域



地域でこんな取り組みが
広がっています

一人ひとりが望むはたらき方を

多様なはたらき方を支える職場環境づくり～あかねの会～

あかねの会では、主に知的に障害のある人の発達支援から就労支援、生活・余暇支援まで、包括的な事業を展開しています。

理事長の吉田さんは、近年の障害のある人が企業などではたらく「障害者雇用」の広がりが、障害のある人の社会参加につながり嬉しい反面、社会に適応できないことで、失敗体験が積み重なってしまうという課題も浮き彫りになっていると指摘します。

「障害のある人一人ひとりが持っている力や可能性が当たり前認められ、受け止められて、多くの場面で活躍できる多様なはたらき方がある地域社会が理想です。」

また、法人の理事長としても、はたらく職員の年齢や障害、家庭状況などに応じた、多様ではたらきやすい職場づくりを心がけているそうです。「職員の最高齢は80代。そのほかにも、



理事長 吉田さん

子育て中だったり、以前は発達障害の特性がある職員も受け入れてきました。職員それぞれの状況に合ったはたらき方を模索しながら、その人が持っている能力を発揮してもらえるような職場環境づくりをすることが障害のある人の支援にも良い影響を与えています。」

就労体験で次の一步を踏み出す～ねりま社会福祉法人等のネット～

今まで就労したことがない、コミュニケーションをとることが苦手など、働きたいと思ってもその一歩を踏み出すことに不安を感じている方がいます。そういった方々が少しでも自己肯定感が高まる機会につながるよう、ねりま社会福祉法人等のネットでは「就労体験」を行っています。

高齢者施設や障害者施設、保育園など対人援助の専門性のある社会福祉法人だからこそ、本人を受けとめ、見守り、次の一歩を踏み出す自信を身につけられる環境を作ることができます。



農作業を通じた地域交流・就労体験の様子